

つくり
育てる漁業
人と技術の
ネットワーク

ACN REPORT

特定
非営利
活動法人

ACNレポート
第48号

2018年1月30日発行
(毎年2回1月・9月発行)

編集/NPO法人ACN事務局
発行人/田嶋猛(NPO法人ACN代表)
発行所/NPO法人アควアカルチャーネットワーク
〒833-0056 福岡県筑後市久富1343番地
ACN事務局/クロレラ工業株式会社
生産本部 技術特販部内
TEL:0942-52-1261
FAX:0942-51-7203

NO.48 2018.JAN.
AQUACULTURE NETWORK

1. ACNフォーラムin福岡

NPO法人 ACN

2. ACN養殖用種苗生産中間速報

NPO法人 ACN

3. 養殖・販売概況

NPO法人 ACN

4. 中国からの養殖トラフグの輸入数量と金額の試算

太平洋貿易株式会社 会長 田嶋 猛

5. ACNフォーラム開催予定

2018年 年頭のご挨拶

(アควアカルチャーネットワーク)

NPO法人 ACN 理事長 田嶋 猛



新春を迎え謹んでお慶び申し上げます。

読者の皆様には平素よりNPO法人ACNの活動にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げますと共に、戌年の2018年が、皆様にとりまして実り多き年になりますよう祈念いたします。本年もどうぞよろしくお願いたします。

謹 賀 新 年

<会 員>

神畑養魚(株)	九州・水生生物研究所	クロレラ工業(株)	太平洋貿易(株)
(株)田中三次郎商店	東亜薬品工業(株)	日清丸紅飼料(株)	日本エレクトロセンサデバイス(株)
日本農産工業(株)	林兼産業(株)	バッセル化学(株)	フィード・ワン(株)
(有)松阪製作所	(株)山一製作所	ヤンマー(株)	

<賛助会員>

ウインテック(株)	(株)サン・ダイコー	日本エア・リキード(株)
-----------	------------	--------------

(会員名五十音順)

第28回ACNフォーラムin福岡を2017年10月18日アークホテルロイヤル福岡天神にて開催

第28回目となる本会では、田嶋ACN理事長の開会挨拶の後、来賓として(有)湊文社の池田成己社長からご祝辞を頂きました。続いてACN顧問である長崎大学大学院教授 萩原篤志先生から講演者お二人のこれまでの研究の紹介があり、その後、長崎大学大学院教授 阪倉良孝先生から「種苗生産水槽の流れを考える」と題して、続いて宮崎大学農学部准教授 長野直樹先生から「マサバの完全養殖技術とブランド化」と題して講演をして頂きました。休憩の後の総合討論では約1時間に及ぶ活発な質疑応答が行われました。



来賓挨拶
(有)湊文社
代表取締役 池田 成己様



講演者の紹介
ACN顧問 長崎大学大学院
教授 萩原 篤志先生



講演-1
「種苗生産水槽の流れを考える」
長崎大学大学院
教授 阪倉 良孝先生



講演-2
「マサバの完全養殖技術と
ブランド化」
宮崎大学農学部
准教授 長野 直樹先生



総合討論での講演者と質問者

講演終了後の情報交換会は、稲田ACN副理事長の開会の挨拶に始まり、懇談も一段落したところで恒例の協賛各社提供の景品抽選会を行い、頃合いを見て室越ACN副理事長が「2018年は西郷どんで盛り上がっている鹿児島市で開催」と宣言し、万歳でお開きになりました。

■海面養殖業 魚種別収穫量

(農林水産省HP 統計データ)
単位：トン

注：平成23年は、東日本大震災の影響により、消失したデータは含まない数値。

平成23年までの「クロマグロ」の数値は、「その他」に含まれる。

資料：農林水産省 統計情報

年次	ギンザケ	ブリ類	マアジ	シマアジ	マダイ	ヒラメ	フグ類	クロマグロ	その他	合計
H18(2006)	12,046	155,004	1,977	3,300	71,141	4,613	4,371	—	5,930	258,383
H19(2007)	13,567	159,749	1,773	3,211	66,663	4,592	4,230	—	8,289	262,073
H20(2008)	12,809	155,108	1,695	2,638	71,588	4,164	4,138	—	7,991	260,132
H21(2009)	15,770	154,943	1,682	2,522	70,959	4,654	4,680	—	9,557	264,766
H22(2010)	14,766	138,936	1,471	2,795	67,607	3,977	4,410	—	11,751	245,712
H23(2011)	116	146,240	1,094	3,082	61,186	3,475	3,724	—	12,689	231,606
H24(2012)	9,728	160,215	1,093	3,131	56,653	3,125	4,179	9,639	2,709	250,472
H25(2013)	12,215	150,387	957	3,155	56,861	2,501	4,965	10,396	2,234	243,670
H26(2014)	12,802	134,608	836	3,186	61,702	2,607	4,902	14,713	2,607	237,964
H27(2015)	13,937	140,292	811	3,352	63,605	2,545	4,012	14,825	2,709	246,089
H28(2016)	13,208	140,868	740	3,941	66,965	2,309	3,491	13,413	2,629	247,563

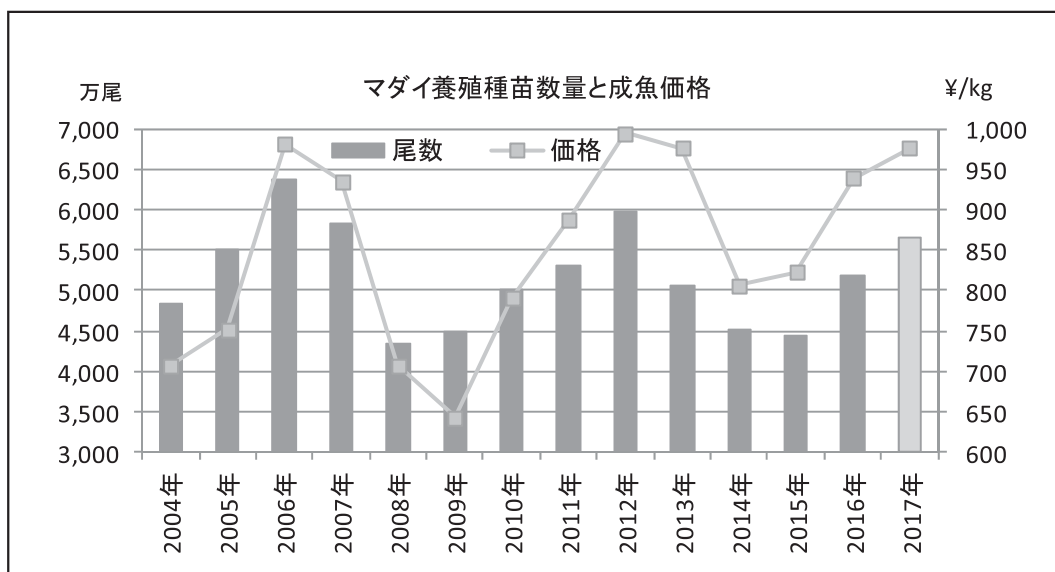
ACN養殖用種苗生産中間速報

2017年9月～12月出荷尾数
2018年1月～予測

1. マダイ 真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛

2017年9月～12月に出荷された夏越し種苗は618万尾となり、前年（571万尾）より8%増となった。また、同期間に仕込まれた種苗の販売予定数は2,980万尾、2018年1月以降に仕込んだ種苗の販売予定数は2,685万尾で、今シーズン（2017年9月～2018年8月）の養殖用種苗数は計5,665万尾（民間16社、公的1事業場）と予想され、昨シーズン比10%増が見込まれる。2016年以降マダイ成魚価格が堅調に推移しているため、

養殖業者の種苗導入意欲が高いことが、種苗生産数増加の要因と思われる。下図はマダイ養殖種苗数と東京都中央卸売市場の成魚価格の推移を示しているが、成魚価格と種苗数増減は連動を続けながら周期的に変化してきている。仮に今シーズン種苗数が見込みの5,665万尾を大きく超える様であれば、2020年頃の成魚価格の下落が懸念される。今後のマダイ成魚価格と種苗数に留意していきたい。



資料：成魚価格 東京都中央卸売市場（全場） 鮮魚/マダイ/養殖
種苗尾数 ACNレポート種苗生産速報（記載年9月から翌年8月までの1年間の数値）
2017年は予想数

2. トラフグ 虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚

2017年9月～12月の年内採卵は**近畿大学**など3社、種苗生産は4社で前年同様であり、変形や大量斃死等の情報もなく順調なスタートであった。生産数は約47万尾で、年末までに加温設備のある四国の養殖場などに18万尾が出荷された。その他の生産者は、11月下旬より親魚を仕立て、2018年1月上旬～2月上旬採卵の準備に入っている。

2018年は、採卵時期を例年より約2週間遅らせる生産者が増えている。その理由として、2017年は成魚価格の大幅な下落にもかかわらず、荷動きは悪く、成魚在池量が多いことが考えられる。養殖業者は年明け後も在池分の出荷に奔走しており、種苗生産者へ前年のような引き合いを出せる状況ではない模様

である。また、トラフグに比べてヒラメ相場が好調なため、大分県の陸上養殖場はトラフグ種苗を減らし、ヒラメ種苗を増加するようである。

2018年1月上旬採卵分の種苗の一部は、加温施設のある陸上養殖場へ3月に全長5cm・歯切り無しで出荷され、残りの種苗は、全長7～8cmまで飼育して、歯切り後の出荷予定である。

全雄種苗は2018年も数社で生産される予定であり、その成魚のほとんどが白子を保有していることで養殖生産者からの評価も上がってきている。2016年生産の種苗が、2018年1月以降に成魚で出荷される予定であり、流通関係者からの高評価が期待される場所である。

3. ヒラメ 平目

2017年9月～12月の種苗出荷数は、まる**阿水産、長崎種苗、マリンテック**など7社で170万尾(前年比129%)に増加している。2018年1月初旬の種苗場からの出荷予定在数は157万尾であり、今後の出荷尾数を前年並みと仮定すると、2017年9月～2018年8月の養殖用種苗数は前年比50万尾増の約580万尾と予想される。

種苗数増加の要因として、ヒラメ成魚の需要が堅調なことと、前年発生したアクアレオウイルス症の発生もなく、ヒラメ種苗生産が順調に推移したことが挙げられる。しかし、大分県では、トラフグ成魚の出荷不調で、ヒラメ種苗用イケスの確保が困難な

ことや、種苗生産者は受注前の見込み生産をしないため、種苗数の大幅増加はないものと予想される。ここ数年間、韓国からのヒラメ輸入量が減少しているので、種苗が確保出来れば導入のチャンスであると思われる。

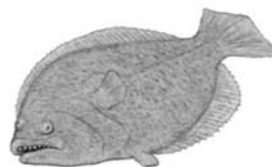
養殖生産量の減少に伴い活ヒラメの消費市場の縮小が加速しているが、一定の生産量確保は市場へのアピールにもなりうるものと考えられ、2018年が国産ヒラメ復活のターニングポイントになることを期待したい。

4. シマアジ 縞鯨縞鯨縞鯨縞鯨縞鯨縞鯨縞鯨縞鯨縞鯨縞鯨縞鯨縞鯨縞鯨縞鯨縞鯨縞鯨縞鯨縞鯨

ここ3年間で養殖生産者が導入したシマアジ種苗は、2015年・390万尾、2016年・420万尾、2017年・370万尾と平均390万尾/年で、それまでの3年間の平均尾数260万尾/年の50%増となっている。その結果、出荷サイズの在池量は多く、しかも荷動きが悪く、浜値

も低迷している。そのため、2018年のシマアジ種苗の需要の大幅減が考えられるものの、種苗生産者は、販売数を350万尾と想定している模様である。2018年の種苗価格の下落と成魚浜値回復の遅れが、危惧される場所である。

文中社名敬称略



1. マダイ 真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛真鯛

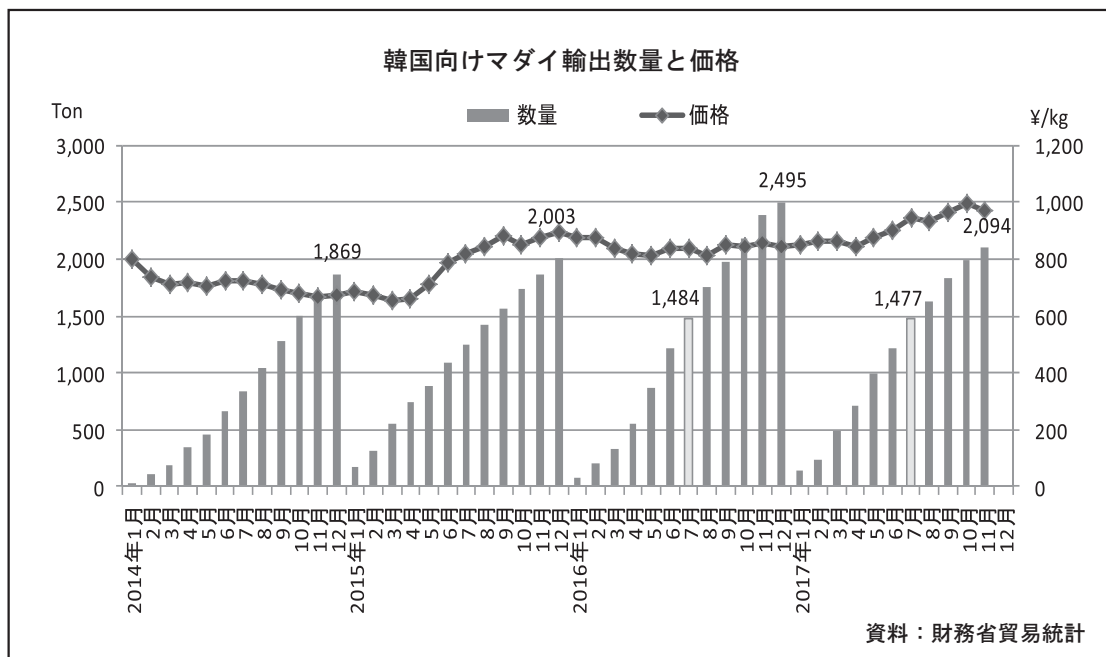
2017年のマダイは、2016年以降の韓国向け輸出が堅調で、在池尾数が減少していることや、赤潮対策による餌止めや水温変動による成長低迷などで、出荷サイズ（特に1.8kgアップの大サイズ）が少ない状態が続いた。そのことで、900円/kg前後の浜値（生産者価格）を維持し、一時ではあるが1,000円/kg超えも見受けられた。環境の良い秋期には、高成長を目指して給餌意欲も高まるなど好況だったが、12月には急激に水温が低下するなど、冬場の環境下で成長は鈍化傾向と推測される。

下図に示すように、韓国向け輸出は、2017年の7月まで前年並みであったが、その後は減少傾向である。その要因として国内での品薄が考えられるが、今後の動向が気掛かりである。しかしながら、2017年1月～11月の輸出数量は2,094トンを、2016年比-12%だが、ここ数年間では高い数値であるので、2018年以降も堅調な輸出を期待したい。

マダイ相場は、これからも好調と考えられるが、

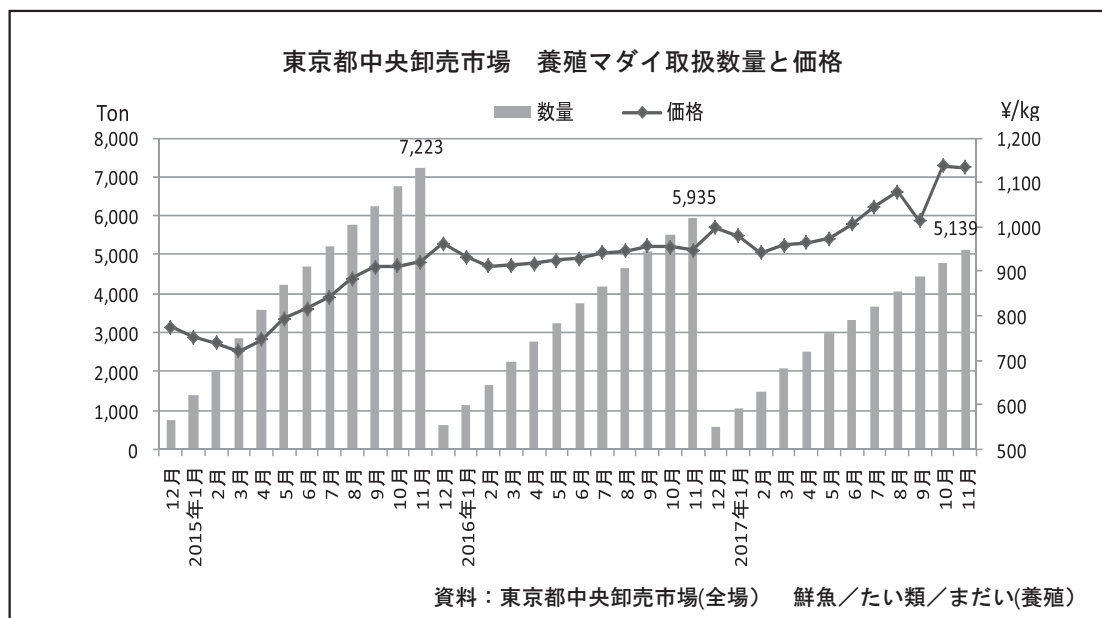
高値張り付きによる引き合いの弱まりも見受けられ、需給バランスに変化が生じるかもしれない。本稿で「天然魚が養殖魚の価格に及ぼす影響」をコメントすることになり、マダイについて聞き取り調査してみた。その結果、天然マダイ漁獲量（2016年・15,151トン）は養殖マダイ収穫量（同年・66,965トン）よりもかなり少ないこと、天然魚と養殖魚の価格帯は異なり同じ土俵に無いなど、マダイに関しては天然魚と養殖魚は、殆ど競合していないとの結論に達した。

疾病状況では、イリドウィルス症やエドワジエラ症の被害は、依然として発生し、歩留まり低下の要因となり、特に愛媛南部や高知など水温が高くなる地域で顕著だった。一部ではエピテリオシスチス症感染も生じた。これら疾病被害が発生する中、イリドワクチンの接種マダイの歩留まりは高い傾向にあり、有効な疾病対策手段として普及していくものと思われる。



次頁図は、東京都中央卸売市場（全市場）における養殖マダイ鮮魚の取扱累計数量と月別価格（消費税込）について、直近データの2017年7月を基準に、3年分を示したものである。2016年12月～2017年11月の

年間取扱量は5,139トンであり、前年同期は5,935トン、前々年は7,223トンであり、2年連続減少している。価格は上昇傾向である。



2. トラフグ 虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚虎河豚

2015年以降高値が続いてきたトラフグを、2016年10月から量販店や飲食チェーンがメニューから外したため、荷動きは低下し、浜値も日々下がり続け2017年4月末には、海面物1,500～1,600円/kg円、陸上物1,700円/kg～まで下げて2016年のトラフグシーズンを終了した。安値で出荷された物は加工用の冷凍在庫になった模様である。

2017年のトラフグ商戦は、9月上旬から始まり、下旬の浜値(生産者価格)は海面物800gサイズ2,500円/kg、キロUP 2,700～2,800円/kg、陸上物1.5キロUP 3,200～3,300円/kgであった。因みに、2016年同期の浜値は海面物700gサイズ3,000円/kg、陸上物キロUP 4,500～5,000円/kgと高値であった。10月末までは、暑さと総選挙でトラフグ消費は不振であり、11月の選挙後も期待外れで、11月末には海面物1,500～1,800円/kg円・陸上物2,000～2,200円/kgとさらに下落した。12月末は海面物では1,300円/kgや1,700円/kgと極端な価格差で投げ売りに近い状況になり、陸上物も1,800～2,200円/kgまで下落して、2017年のシーズンを終了した。天然トラフグの養殖物の価格への影響としては、資源評価では伊勢・三河湾系群トラフグと言われる愛知、三重、静岡県で漁獲されるトラフグには人工種苗放流したものが多く、価格は天然と養殖の中間と言われていたことがあった。この系群が1日10～20トン獲れたら、養殖物の値段が下がると聞いたことがあったが、2017年9月から年明けまでの漁獲量は前年よりも少ない模様である。しかも養殖物が底値に張り付いているので、天然物が養殖物の価格を下げることはなく、むしろ伊勢・三河湾系群の天然物トラフ

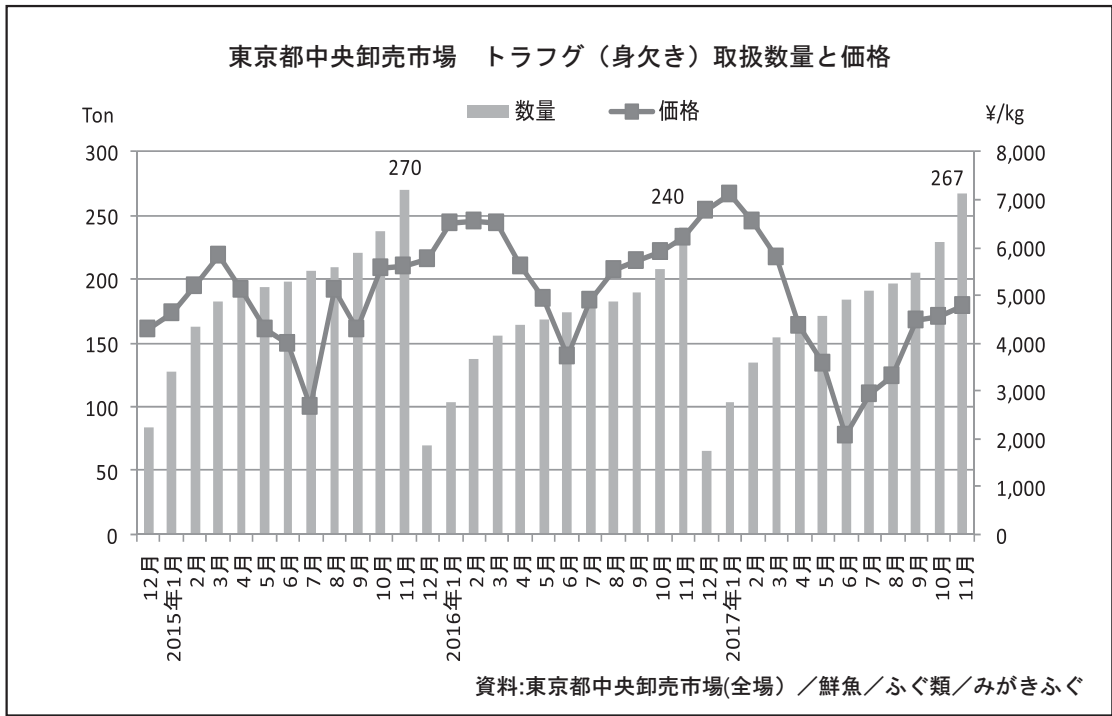
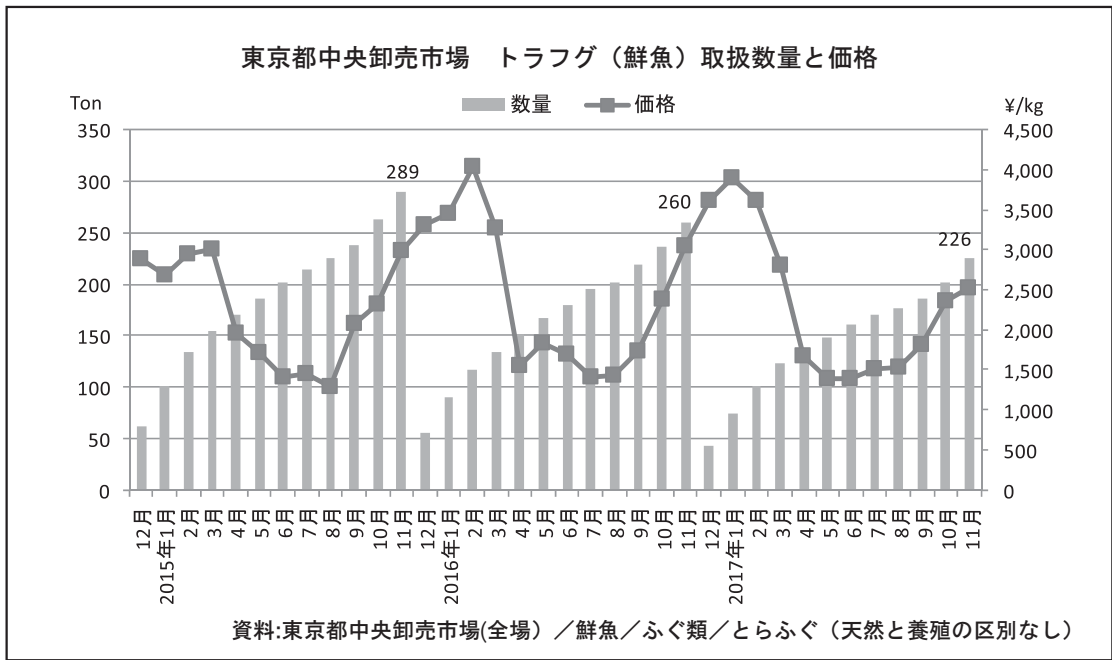
グが養殖物に足を引っ張られる状況と思われる。水産庁の資源調査資料によれば、2014年のトラフグ漁獲量は、日本海、東シナ海、瀬戸内海系群が219トン、伊勢・三河湾系群が123トン合計342トンであった。それ以降の漁獲量も300～400トン/年と思われる。

ある養殖場は、2017年末まで活魚出荷をせず、自社で全数身欠き加工し4,500～5,000円/kgの売値を維持したそうである。

明るい話題としては、2018年の年明けには値頃感が出たトラフグの、お買い得セールを打ち出す量販店が増えつつあり、今後の浜値上昇が期待されることである。2017年の種苗導入数は約800万尾と2016年の9割程度で、しかも、7月末の赤潮(カレンニア・ミキモトイ)での大量斃死後の種苗補充は間に合わなかったようである。そのため在池量は減少しており、2018年シーズンの浜値動向を注視したい。

2017年シーズンも、中国産の活魚と冷凍が前年並み(約800トン)に輸入されたようであり、国産冷凍在庫と共に浜値上昇に水を差す要因となっている。なお、2017年9月以降に輸入された中国産活魚は国内相場の低迷で逆ザヤになったという情報もある。

次頁図は、東京都中央卸売市場における「鮮魚」と「身欠き」トラフグの取扱い累計数量と月別平均価格(消費税込)について、直近データの2017年11月を基準に、3年分を示したものである。2015年と2016年の取扱量は鮮魚が身欠きより多かったが、2016年12月～2017年11月では鮮魚(226トン)よりも身欠き(267トン)が多くなっている。2017年11月の価格は鮮魚と身欠き共に前年比で約20%下落している。



3. ヒラメ 平目

東京都中央卸売市場のヒラメ価格は、2017年6月の1,650円/kgを底に10月には2,600円/kgと急上昇した。その要因として、関東圏は関西圏に比べて韓国産ヒラメの消費比率が高いこと、そして、韓国からの輸入単価が7月から10月までに21%上昇したこと、クドア食中毒懸念も関係して、輸入数量が15%減少したことが挙げられる。数年前には北海道や青森県の天然ヒラメが九州まで活魚で運ばれて、養殖ヒラメと競合することもあったが、このところそのような情報は入っていない。

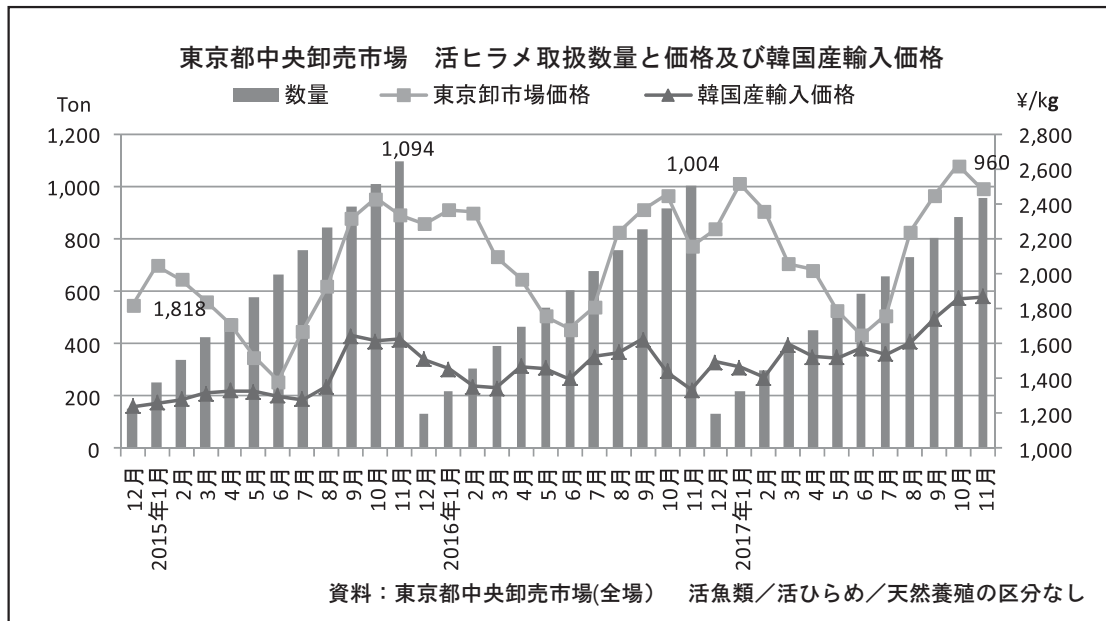
国内物は、出荷サイズのヒラメ在池量が少ないた

め、荷動きは韓国産同様に低調であり、2018年では、大分県の養殖業者はトラフグに代わってヒラメを増産したいところだが、トラフグの出荷状況が悪いため、ヒラメ種苗を入れるイケスが空かない状況である。2018年1月の浜値(生産者価格)は、800gサイズ1,550~1,650円/kg、1kgサイズ1,700~1,800円/kgで、大分県ブランドの「かぼすヒラメ」は2,000円/kgである。

次頁図は、直近3年間の東京都中央卸売市場の活ヒラメ取扱累計数量と価格及び韓国産輸入の価格の推移を示したものである。数量と月別価格(消費税込)

は天然物と養殖物(国産+韓国産)を合算している。韓国産はCIF価格(商品代+運賃+保険、消費税抜き)である。2016年12月~2017年11月の年間取扱量は960

トンであり、前年同期は1,004トン、前々年は1,094トンで、僅かながら2年連続減少しているが、価格は堅調に推移している。

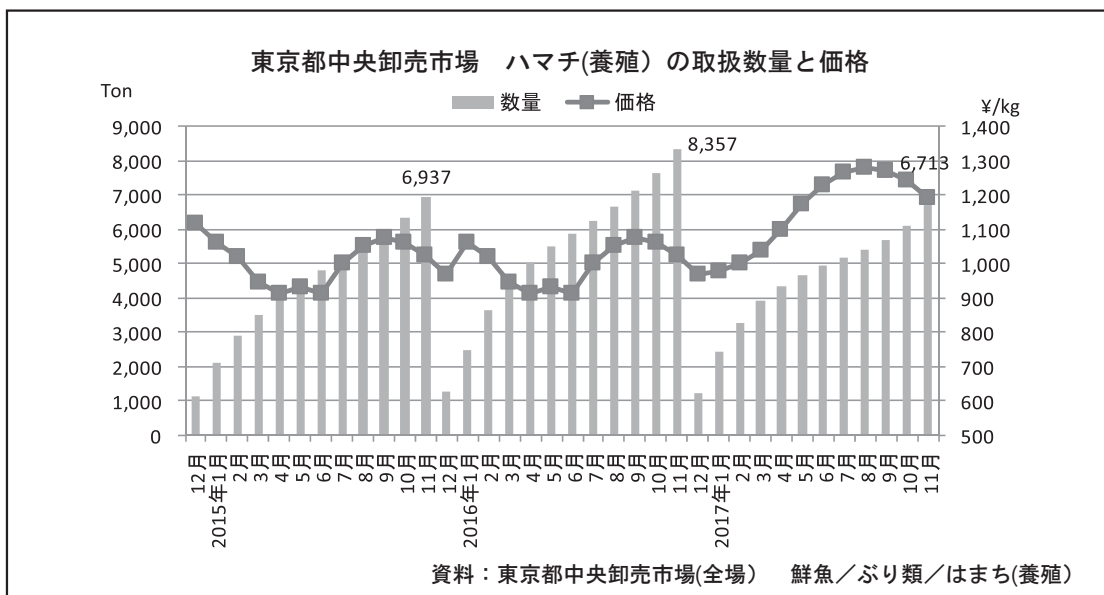


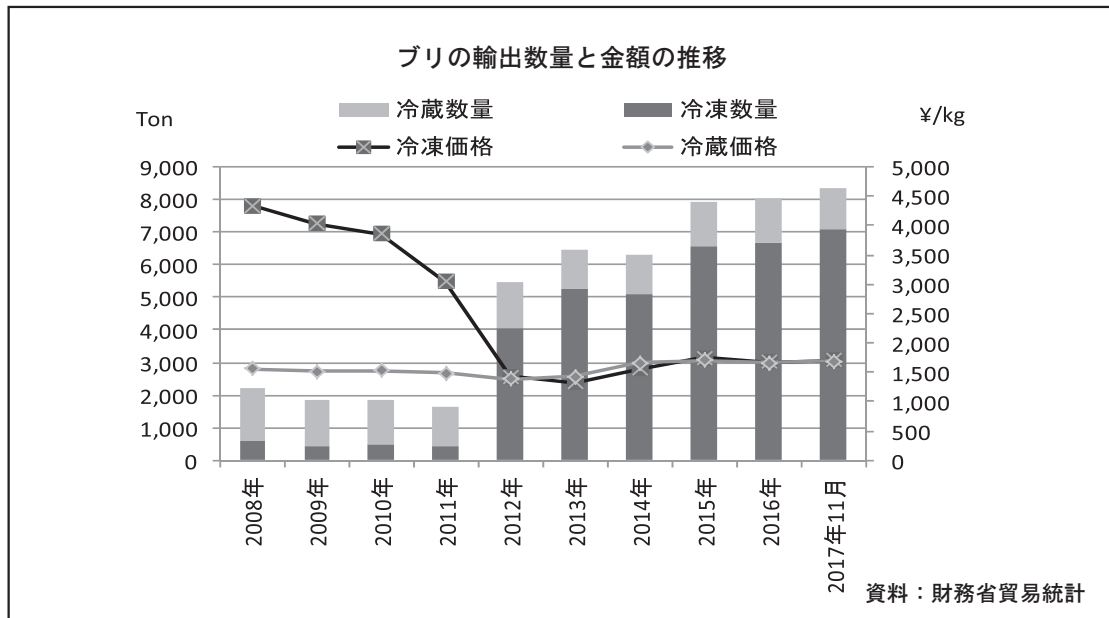
4. ブリ・ハマチ 鯡・鰯 鯡・鰯 鯡・鰯 鯡・鰯 鯡・鰯 鯡・鰯 鯡・鰯 鯡・鰯

2017年の夏から900~950円/kgを維持していた浜相場は、10月下旬の2度の台風襲来で売れ行きが鈍り、11月に入り850円/kgに下がった。そのうえ競合相手の天然ブリが前年同期比20%増の豊漁となったため、12月に入り更に800円/kgに下がった。しかしながら、2106年12月の700円台/kg前半と比べれば高値を維持していると言える。出荷サイズの在池数も少なく大幅な下落は考えにくい。天然ブリの水揚げは2018年春まで前年同期比増と予想されており、養殖ブリ、

ハマチ相場への影響が懸念される場所である。

下図のように、ブリの輸出は増加しており、2017年1月~11月の数量・金額は8,334トン・141億円で、2016年の年間数量を超えている。輸出の形態は生鮮・冷蔵または冷凍のフィレであり、2012年以降は、数量・金額ともに冷凍品が生鮮・冷蔵品を上回り、その比率は85:15となっている。輸出先は世界35カ国・地域に及ぶが、数量・金額ともにアメリカ向けが85%を占めている。





2017年12月には黒瀬水産、グローバル・オーシャン・ワークス（ブリ生産委託先の福山養殖も含む）の2社がブリで水産養殖管理協議会（ASC）の認証を取得しており、取得準備中の企業もあるようで、世界戦略魚として、ブリの輸出支援強化がされていくであろう。ただし、主力輸出先のアメリカでは需要量を満たしつつあり、数量を捌くための添付販売も行われており利益縮小状況となっている。EU圏や中

国などへの輸出に、国を挙げての早急な対策が望まれるところである。

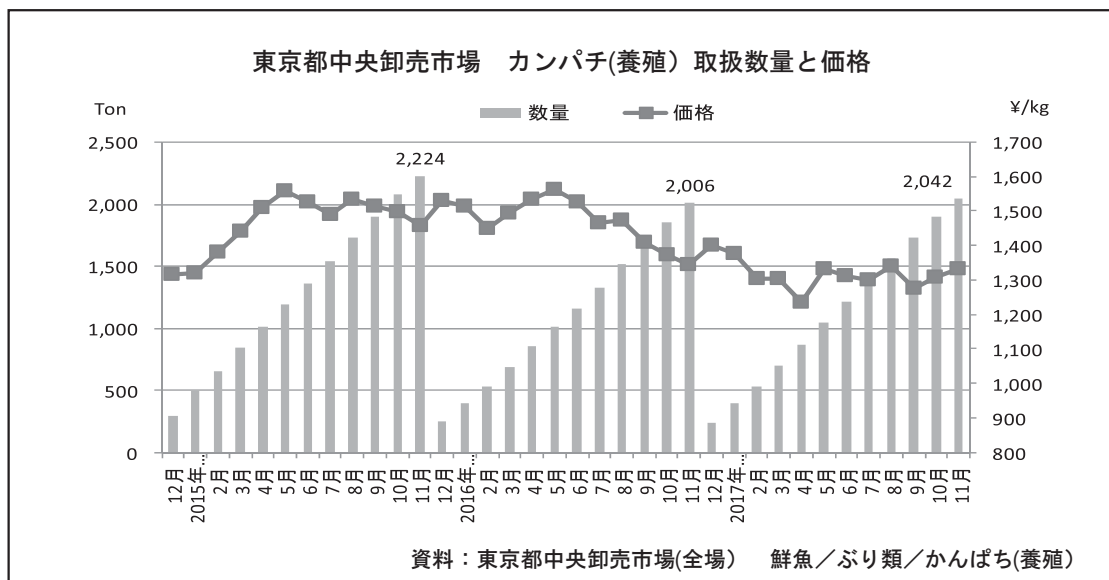
育成技術面では、国立研究開発法人水産研究・教育機構がブリ・ハマチのベコ病治療法を開発し、既に実用化に向けての試験に入っているとのことである。ベコ病罹患魚は著しく商品価値の低下を招くためブリ、ハマチ養殖にとって明るい話題であると言える。

5.カンパチ 間八

2017年9月以降もカンパチの荷動きは悪く、浜値を下げたとしても荷が動かない状態が継続しているので、生産者は2017年1月以来の表向きの浜値900円/kgを維持しながら出荷している。ただし、11月以降の低水温期にはカンパチの成長が見込めないため、在池量を減らすため、活魚出荷でなく量の捌けるメ出

荷も散見され、実際の価格は900円/kgを割っていると思われる。

年末が近づくにつれ飼育水温が下がる香川県内で、例年どおりカンパチ出荷が増加しており、この出荷が一段落すれば、浜値が少しでも持ち直すことを期待したい。



中国からの養殖トラフグの輸入数量と金額の試算

—— 財務省貿易統計による ——

2018年1月

太平洋貿易㈱ 会長 田嶋 猛

2001年～2016年の日本での養殖トラフグの収穫量と金額の推移を表1と図1に示します。収穫量では2001年の5,769トンから2016年には3,300トンと42.8%減少しています。生産者の価格は、収穫量ほどの落ち込みはないものの、ここ数年間は2,000円/kgを割ることが多くトラフグ養殖経営の厳しさが理解できます。韓国産ヒラメの輸入が日本のヒラメ養殖業に甚大な影響を与えたように、中国産トラフグの輸入も日本のトラフグ養殖業には多大な影響を与えていますが、残念ながら輸入の実態を把握することができません。

一般的に商品の輸入年月、数量、金額は財務省のHPの実行関税率表から統計番号を特定して検索することになります。表2は実行関税率表を抜粋したのですが、例えば韓国から活魚で輸入されるヒラメを検索したいときは、番号03.01 品名 魚(生きているものに限る)の下の方に行くと、みなみまぐろの次に0301.99その他のものがあり、さらに下に行くと220-ひらめ(パラリクティス属のもの)と出てきます。そこで財務省貿易統計(検索ページ)に、品目コード030199220及び韓国の国コード103と入力すれば、韓国からの輸入量と金額(注1)を検索できます。しかし、トラフグ活魚については、表2 実行関税率表の番号03.01 品名 魚(生きているものに限る)のどこにも記載がないので、0301.99その他のものの最後の行の-290その他のものにトラフグも含まれることになります。また、その下の行には03.02 生鮮のもの及び冷蔵したものの項目に0302.89.290-ふぐと03.03魚(冷凍したものに限る) 0303.89294-ふぐの記載があるので、この2つの統計番号にはトラフグが含まれていることがわかります。以上のことから、中国産輸入トラフグは統計番号0301.99.290生きている魚-その他のもの及び0302.89.290生鮮・冷蔵のふぐ、0303.89.294冷凍のふぐの3つの統計番号・品名に含まれていることとなります(注2)。この3品目について、2001年～2016年の輸入税関、輸入時期、価格(円/kg)を考慮して、トラフグの輸入数量と価格(金額)を試算してみたので、冷凍、生鮮、活魚の順で紹介します。なお、本稿の表や図を作成する資料として財務省貿易統計及び農林水産省統計を使用しました。

1. 魚(冷凍したものに限る) -ふぐ

表3及び図2のように、中国からの冷凍フグ輸入数量は2002年の14,775トンから2016年には4,633トンと1/3に減少しています。函館から沖縄まで9税関の官署別に検索した結果、下関が全国の90%以上を占めています。下関での輸入価格(注3)は2001年の106円/kgから2016年には236円/kgであり、この価格帯の冷凍フグは、大部分が珍味等の加工用のサバフグ類です。しかし、下関にはトラフグの加工場も集積しているためトラフグも含まれている筈ですが、その数量の推定はできません。また、下関以外で通関した冷凍フグ数量は2002年の1,268トンから2016年には461トンと減少していますが、2004年以降の価格は700円/kgを超えており、相当量のトラフグが含まれていると考えられます。そこで輸入価格が750円/kgの冷凍フグをトラフグと仮定して、全国の税関官署別に検索してみました。その結果、表4及び図3に示すように、東京、横浜、大阪、神戸税関管内の7税関官署が該当しました。数量では、2006年(850トン)以降2011年(150トン)まで減少し、2014年には442トンまで増加しています。価格は1,500円/kg前後で安定しています。

図4は輸入数量の多かった2004年～2008年の月別数量と価格を示したものです。価格が750円/kg以上の冷凍フグの輸入時期は、10月～12月に集中しており、トラフグの需要期と合致しています。

2. 魚(生鮮及び冷蔵したものに限る) -ふぐ

表5は中国産の生鮮及び冷蔵フグの税関官署別の輸入数量と価格を示したものです。官署別の数量では、船便で輸送される下関が70%以上を占めていますが、成田、関西、福岡への航空便も利用されています。生鮮及び冷蔵で魚類を輸送する場合、一般的に発泡スチロール容器に魚とほぼ同量の氷を詰めるため、重くて嵩張り輸送コストは高くなります。しかも航空便まで利用するという点で、中国からの生鮮・冷蔵フグはトラフグであると推定できます。

図5は中国産冷蔵及び生鮮フグの輸入数量と価格の推移を示しています。数量は2004年(1,254トン)以降減少傾向でしたが、2010年からは100トンを超えるまでに激減しています。この原因としては、2009年に

日本の養殖トラフグの浜値が1,000円/kgまで暴落したため、それに合わせて中国産が500円/kg以下まで買い叩かれたため、中国の生産業者が生鮮・冷蔵から保存可能な冷凍にシフトしたためと考えられます。図6は輸入数量の多かった2002年8月～2007年2月の月別数量と価格を示していますが、生鮮・冷蔵フグはトラフグ需要期に合わせて9月～翌年1月に輸入されています。

3. 魚（生きているものに限る）－その他のもの

中国から輸入される活魚の中で、実行関税率表に品名（魚種）が特定されていないものは、トラフグ、ハモ、マダイ、スズキ等があります。図7は「これら品名が特定されていないその他の活魚」の合計輸入数量と平均価格を税関別に示しています。東京から沖縄まで7税関管内の38官署で通関されおり、管内に四国を有する神戸税関の割合が大きく、特に輸入数量の減少した2010年以降では全国の70%近くを占めています。図8は輸入数量の多かった2001年～2006年と、図9は数量が減少した2011年～2016年の月別の輸入数量と価格を示したものです。双方とも4月～7月と10月～12月に数量が増加していますが、図8の方が4月～7月の増加が顕著です。弊社は上海から活きたハモを関西空港着で輸入していた経験があり、2001年～2006年の4月～7月には関西空港だけで毎月100トン以上が通関されていることから、この活魚はハモが主体と考えられます。そして、10月～12月の輸入の活魚は前述の冷凍フグと生鮮・冷蔵フグと同様にトラフグではないかと推測できます。表6、図10は、2001年～2016年の10月～12月で、中国からの「その他の活魚」

の通関数量が月間100トン以上の税関官署と、それ以外の官署の合計輸入数量と価格及び平均価格を示しています。輸入数量は2004年以降減少していますが、官署別では全般的に宇和島の割合が高く、ここ数年間は詫間の数量が増加し、下関が減少しています。

まとめ

表7、図11は、中国からのトラフグと推定される冷凍、生鮮冷蔵及び活魚について、その輸入数量、価格、金額をまとめたものです。数量は2004年の3,600トン以降2011年まで減少しましたが、その後は700～800トンと横ばいで、価格は僅かながら上昇しています。輸入金額は2004年の45億円から減少し、ここ数年は10～15億円で推移しています。

表8は養殖トラフグの日本産と輸入中国産の数量、金額を比較したものです。日本国内での中国産の比率は、2005年前後は数量で40%、金額で30%でしたが、ここ数年間は数量、金額とも20%以下となっています。

以上

注1 2010年にひらめ活魚の統計番号ができたので、2009年までのデータはない

注2 2011年以前の統計番号は「030269094生鮮・冷蔵のふぐ」及び「030379095冷凍のふぐ」

注3 CIF価格（輸入通関前の保険料・運賃込みの価格）

資料 財務省貿易統計

<http://www.customs.go.jp/toukei/>

農林水産省統計

<http://www.maff.go.jp/j/tokei/>

表1 日本産養殖トラフグの収穫量と生産額、価格

	収穫量 Ton	生産金額 百万円	価格 円/kg
2001	5,769	14,566	2,525
2002	5,231	13,210	2,525
2003	4,461	12,016	2,694
2004	4,329	10,816	2,498
2005	4,582	10,281	2,244
2006	4,371	9,144	2,092
2007	4,230	9,130	2,158
2008	4,138	9,911	2,395
2009	4,680	8,598	1,837
2010	4,410	8,394	1,903
2011	3,724	7,763	2,085
2012	4,179	7,935	1,899
2013	4,965	8,579	1,728
2014	4,902	8,206	1,674
2015	4,012	9,386	2,339
2016	3,491	—	—

図1 日本産養殖トラフグの収穫量と価格

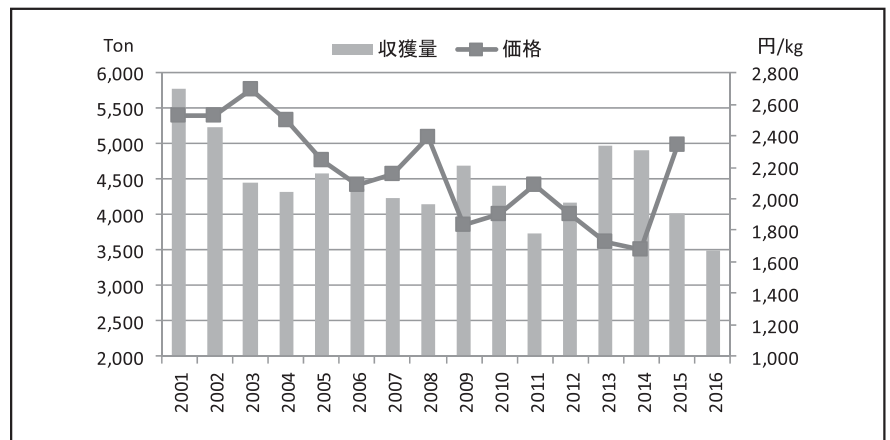


表2 実行関税率表の抜粋

第1部 動物（生きているものに限る。）及び動物性生産品		
分類		
第1類	動物（生きているものに限る。）	
第2類	肉及び食用のくず肉	
第3類	魚並びに甲殻類、軟体動物及びその他の水棲無脊椎動物	
第4類	酪農品、鳥卵、天然はちみつ及び他の類に該当しない食用の動物性生産品	
第5類	動物性生産品（他の類に該当するものを除く。）	
第1部 動物（生きているものに限る。）及び動物性生産品		
第3類	魚並びに甲殻類、軟体動物及びその他の水棲無脊椎動物	
http://www.customs.go.jp/tariff/2017_4/data/j_03.htm		
統計番号 Statistical code		品名 Description
番号 H.S.code		
03.01		魚（生きているものに限る。）
0301.11		淡水魚
0301.91		ます（サルモ・トルタ、オンコルヒュンクス・ミクス、以下省略
0301.92		うなぎ（アングイルラ属のもの）
0301.93		こい（クテノファリユゴドン・イデルルス、以下省略
0301.94		くろまぐろ（トウヌス・ティヌス及びトウヌス・オリエンタリス）
0301.95		みなみまぐろ（トウヌス・マッコイイ）
0301.99		その他のもの
		1 養魚用の稚魚
		— ぶり（セリオオーラ属のもの）
	111	— ぶり（セリオオーラ・クインクエラディアータ）
	119	— その他のもの
	120	— こい
	190	— その他のもの
		2 その他のもの
	210	(1)にしん（クルペア属のもの）、以下省略
		(2)その他のもの
	220	— ひらめ（パラリクティス属のもの）
	230	— こい
	290	— その他のもの
03.02		魚（生鮮のもの及び冷蔵したものに限るものとし、第03.04項の魚のフィレその他の魚肉を除く。）
		さけ科のもの（第0302.91号から第0302.99号までの食用の魚のくず肉を除く。）
0302.89		その他のもの
	294	— ふぐ
03.03		魚（冷凍したものに限るものとし、第03.04項の魚のフィレその他の魚肉を除く。）
0303.89		その他のもの
	294	— ふぐ

表3 中国産冷凍フグの輸入数量、価格、金額

	下 関		その他		全 国		
	数量 Ton	価格 円/kg	数量 Ton	価格 円/kg	数量 Ton	価格 円/kg	金額 百万円
2001	11,991	106	439	382	12,430	116	1,440
2002	13,507	117	1,268	210	14,775	125	1,841
2003	9,320	116	556	547	9,876	140	1,382
2004	9,944	133	1,029	709	10,973	187	2,049
2005	8,513	166	708	883	9,221	221	2,036
2006	9,255	172	1,054	1,223	10,309	279	2,880
2007	6,794	180	521	1,493	7,315	274	2,001
2008	6,124	181	460	1,693	6,584	286	1,885
2009	4,997	152	139	1,096	5,136	177	911
2010	6,094	167	324	843	6,417	201	1,292
2011	4,264	195	240	1,088	4,504	243	1,094
2012	5,005	187	345	1,550	5,350	275	1,469
2013	4,332	190	342	1,682	4,674	300	1,400
2014	4,490	189	490	1,433	4,980	311	1,549
2015	5,060	253	540	1,195	5,600	344	1,925
2016	4,143	236	491	1,077	4,633	326	1,508

図2 中国産冷凍フグの下関とその他の輸入数量と価格

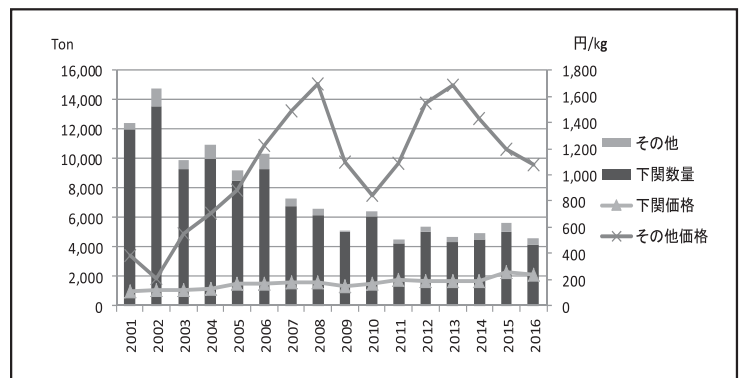


表4 中国産冷凍フグ（750円/kg以上）の税関官署別の輸入数量と価格

管内官署	東京		横浜		大阪		神戸				合計			
	Ton	円/kg	Ton	円/kg	Ton	円/kg	Ton	円/kg	Ton	円/kg	Ton	円/kg		
2001					48	1,570	21	1,683	12	1,186	81	1,545		
2002							65	1,284	41	866	106	1,123		
2003	29	1,133	59	1,502	63	1,202	61	1,152			212	1,262		
2004			360	1,376	67	1,288	73	974			500	1,306		
2005			283	1,591	86	1,244	53	351			423	1,364		
2006			672	1,526	98	1,472	79	1,010			850	1,472		
2007			432	1,534	27	1,788	43	1,248			502	1,523		
2008			370	1,821	33	1,600	0		20	1,800	424	1,803		
2009	8	955	85	1,238	6	1,301	30	847			129	1,133		
2010			147	1,325	6	1,087	39	872			192	1,226		
2011			85	1,799	12	976	20	1,399	21	973	10	783	149	1,491
2012	12	807	226	1,872	6	1,036	48	1,251	9	1,554			301	1,704
2013			274	1,874	6	1,283	19	1,383	15	1,556			314	1,818
2014	5	981	402	1,603	15	1,300	20	1,114					442	1,563
2015	5	951	247	2,158	1	1,568	14	1,682	9	906	24	1,020	300	1,986
2016	6	805	194	1,833			37	1,754	37	1,654			274	1,777

図3 中国産冷凍フグ（750円/kg以上）の輸入数量と価格

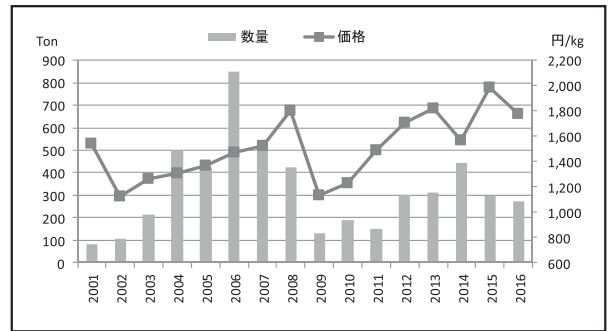


表5 中国産生鮮及び冷蔵フグの税関官署別輸入数量と価格

管内官署	東京		神戸		大阪				門司				その他		合計			
	Ton	円/kg	Ton	円/kg	Ton	円/kg	Ton	円/kg	Ton	円/kg	Ton	円/kg	Ton	円/kg	Ton	円/kg		
2001	3	1,715	49	827	4	710	78	1,195	452	919	35	973	89	1,393	4	146	714	1,003
2002	19	1,103	88	830	26	1,041	36	1,405	514	1,245	22	1,752	18	1,434	1	2,500	724	1,214
2003	25	1,116	78	703	5	1,087	21	949	628	885	46	2,218	4	892	0.3	2,498	806	954
2004	34	971	124	798			10	1,216	900	896	168	2,088	2	1,373			1,238	1,053
2005	9	1,463	54	759			11	1,729	696	1,045	112	1,430	1	700			883	1,089
2006	6	1,993	6	1,001	7	943	1	1,012	915	830	10	883					944	840
2007									511	900							511	900
2008							2	1,746	318	1,324							320	1,327
2009					12	257			254	483	20	627			6	356	292	481
2010							0.4	1,528	87	613	26	829					112	665
2011									38	1,139							38	1,139
2012									59	1,226							59	1,226
2013									42	1,079							42	1,079
2014									13	900							13	900
2015									26	1,583					6	1,443	32	1,557
2016									83	1,632			1	2,700			84	1,645

その他：堺、広島空港、門司、長崎税関

図4 中国産冷凍フグ(750円/kg以上)の月別輸入数量と価格

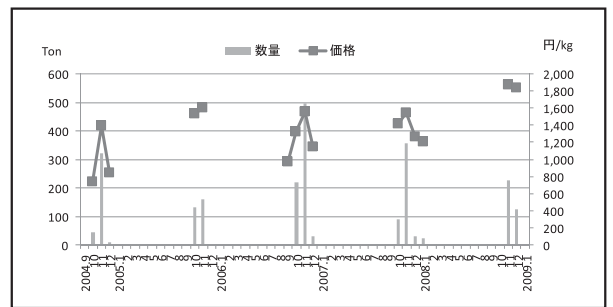


図5 中国産生鮮及び冷蔵フグの輸入数量と価格の推移

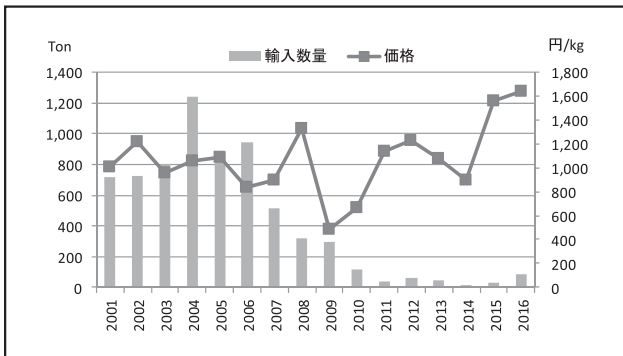


図6 中国産生鮮及び冷蔵フグの月別輸入数量と価格

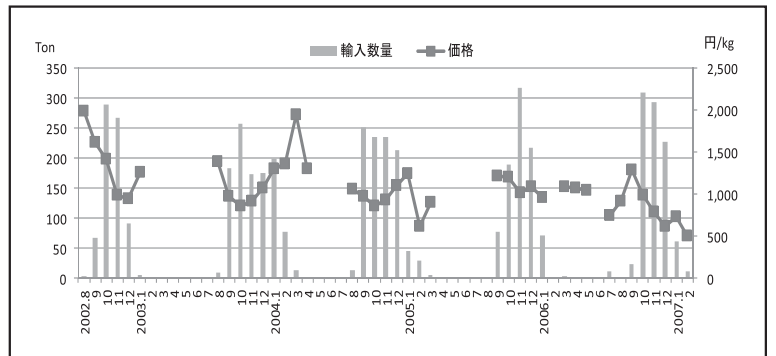


図7 中国産活魚で「その他のもの」の税関別輸入数量と価格

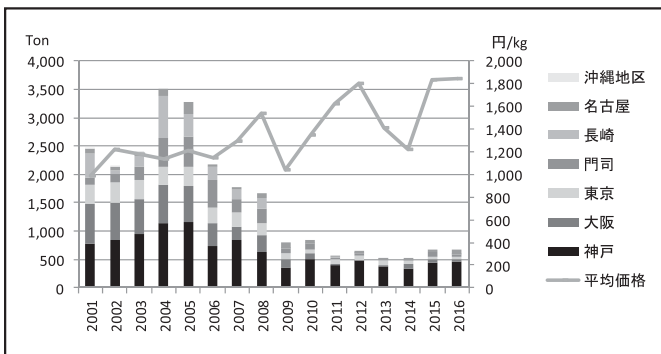


図8 中国から輸入される「その他の活魚」の月別数量と価格(2001年～2006年)

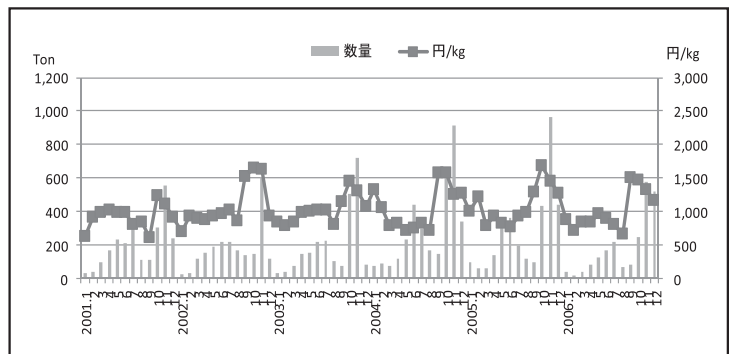


図9 中国から輸入される「その他の活魚」の月別数量と価格(2011年～2016年)

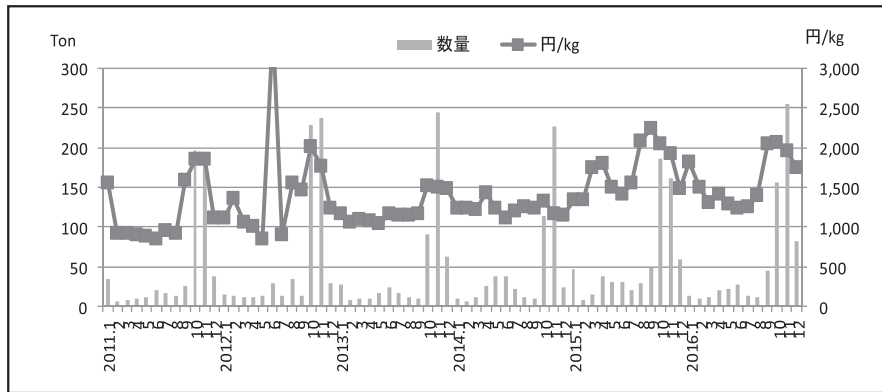


表6 中国から10月～12月に輸入されるトラフグと推定される活魚の入数量と価格

管内 官署	神 戸				門 司		名 古 屋		そ の 他		全 国					
	宇和島	詫 間	丸 亀	松 山	下 関	尾 鷲	Ton	円/kg	Ton	円/kg	Ton	円/kg				
2001	353	3	770	0	114	1,526	64	1,438	0	571	858	1,105	1,106			
2002	443	1,734	37	1,523	90	1,997	74	1,315	35	1,527	0	195	977	874	1,539	
2003	408	1,557	43	1,261	113	1,461	156	1,280	139	1,372	0	446	1,170	1,305	1,354	
2004	306	1,540	69	1,425	170	1,579	164	1,748	251	1,611	62	1,472	853	1,099	1,875	1,364
2005	459	1,438	79	1,625	92	1,537	242	1,485	176	1,974	194	1,578	593	1,248	1,834	1,462
2006	414	1,470	96	1,628	63	1,345	16	1,483	124	1,301	16	1,031	622	1,112	1,350	1,290
2007	429	1,478	122	1,715	55	1,548	13	1,673	128	1,841	0	182	1,149	929	1,501	
2008	259	1,806	104	2,022	61	2,026	7	1,717	95	2,125	43	2,222	320	1,675	888	1,853
2009	131	1,375	78	762	40	937	4	1,849	63	815	0	114	883	430	1,016	
2010	191	1,516	100	1,481	54	1,555	22	1,793	88	1,346	0	40	1,098	495	1,462	
2011	201	1,907	61	1,899	60	1,837	34	1,890	13	1,286	0	49	1,192	418	1,791	
2012	198	1,721	122	2,089	77	1,852	43	2,121	12	2,110	0	43	1,425	496	1,851	
2013	158	1,574	122	1,468	81	1,413	0	0	7	1,472	0	33	1,511	400	1,502	
2014	147	1,240	109	1,234	66	1,126	8	1,163	0	0	0	35	1,283	364	1,220	
2015	190	1,923	104	2,119	54	1,950	3	1,275	17	2,208	0	40	1,247	407	1,917	
2016	170	1,913	170	2,042	64	1,983	1	1,496	10	2,284	25	2,393	53	1,523	494	1,955

図10 中国から10月～12月に輸入されるトラフグと推定される活魚の税関官署別輸入数量と平均価格

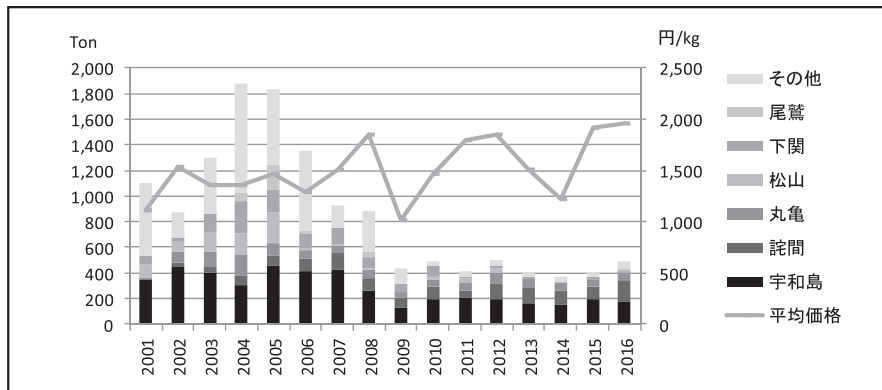


表7 中国から輸入されるトラフグと推定される魚の数量、価格、金額

	冷 凍		生 鮮 冷 蔵		活 魚		合 計		
	数量	価格	数量	価格	数量	価格	数量	価格	金額
	Ton	円/kg	Ton	円/kg	Ton	円/kg	Ton	円/kg	百万円
2001	81	1,545	714	1,003	1,105	1,106	1,900	1,086	2,063
2002	106	1,123	724	1,214	874	1,539	1,704	1,375	2,343
2003	212	1,262	806	954	1,305	1,354	2,323	1,207	2,803
2004	500	1,306	1,238	1,053	1,875	1,364	3,613	1,250	4,515
2005	423	1,364	883	1,089	1,834	1,462	3,140	1,344	4,220
2006	850	1,472	944	840	1,350	1,290	3,144	1,204	3,786
2007	502	1,523	511	900	929	1,501	1,942	1,349	2,620
2008	424	1,803	320	1,327	888	1,853	1,632	1,737	2,834
2009	129	1,133	292	481	430	1,016	851	850	723
2010	192	1,226	112	665	495	1,462	799	1,293	1,033
2011	149	1,491	38	1,139	418	1,791	605	1,676	1,014
2012	301	1,704	59	1,226	496	1,851	856	1,757	1,503
2013	314	1,818	42	1,079	400	1,502	756	1,610	1,217
2014	442	1,563	13	900	364	1,220	819	1,401	1,147
2015	300	1,986	32	1,557	407	1,917	738	1,930	1,425
2016	274	1,777	84	1,645	494	1,955	851	1,867	1,589

図11 中国から輸入されるトラフグと推定される魚の数量と金額

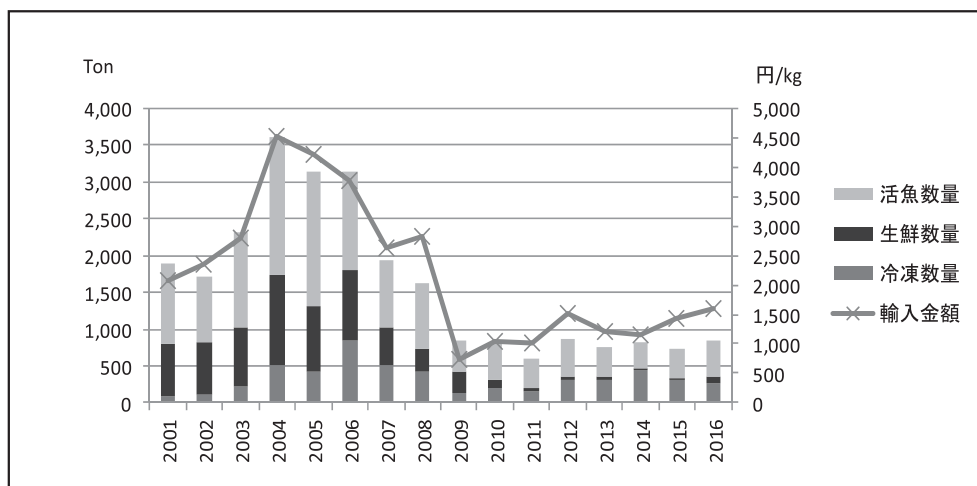


表8 養殖トラフグの日本産と輸入中国産の数量、金額の比較

	日 本		中 国		合 計		中国比率	
	収穫量	生産金額	輸入数量	輸入金額	数 量	金 額	数 量	金 額
	Ton	百万円	Ton	百万円	Ton	百万円	%	%
2001	5,769	14,566	1,900	2,063	7,669	16,629	25	12
2002	5,231	13,210	1,704	2,343	6,935	15,553	25	15
2003	4,461	12,016	2,323	2,803	6,784	14,819	34	19
2004	4,329	10,816	3,613	4,515	7,942	15,331	45	29
2005	4,582	10,281	3,140	4,220	7,722	14,501	41	29
2006	4,371	9,144	3,144	3,786	7,515	12,930	42	29
2007	4,230	9,130	1,942	2,620	6,172	11,750	31	22
2008	4,138	9,911	1,632	2,834	5,770	12,745	28	22
2009	4,680	8,598	851	723	5,531	9,321	15	8
2010	4,410	8,394	799	1,033	5,209	9,427	15	11
2011	3,724	7,763	605	1,014	4,329	8,777	14	12
2012	4,179	7,935	856	1,503	5,035	9,438	17	16
2013	4,965	8,579	756	1,217	5,721	9,796	13	12
2014	4,902	8,206	819	1,147	5,721	9,353	14	12
2015	4,012	9,386	738	1,425	4,750	10,811	16	13
2016	3,491	...	851	1,589	4,342	...	20	...

—— NPO法人ACNの本年度事業ご案内 ——

第29回 ACNフォーラム開催予定

■開催日時：2018年10月16日(火)

■開催場所：鹿児島市

※詳細等については9月頃案内状発送予定。

◆ACNレポートのバックナンバーは右記URLにてご覧になれます。 <http://www.acn-npo.org/>